

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ぼぷら棟)

| | | | |
|---------|---------------|-------|--------------|
| 事業所番号 | 0670400936 | | |
| 法人名 | 株式会社菊地組 | | |
| 事業所名 | グループホームやまぼうし | | |
| 所在地 | 山形県米沢市直江町1番5号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 2年 1月 14日 | 開設年月日 | 平成 16年 8月 1日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは米沢市の西側に位置し、目の前には公園、コミュニティーセンター、小学校が隣接しており、休日には子供達や家族ずれで賑わいます。時間を見つけては公園に散歩に行き、地域の方と挨拶を交わしたり、運動会のシーズンには、声援を送ったりして交流を図っております。夏休み中に行われる早朝ラジオ体操に参加し地域の方から「参加人数が増えた」と喜ばれております。馴染みの場所や行事には家族と一緒に出かけ食事のできる機会を設けたり、ご利用者様が毎日笑顔で穏やかに過ごせるよう支援させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|---------|--------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 エール・フォーユー | | |
| 所在地 | 山形県山形市小白川町二丁目3番31号 | | |
| 訪問調査日 | 令和 2年 2月 13日 | 評価結果決定日 | 令和 2年 2月 28日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念「暮らす毎日幸せに」に沿った支援を目指し、利用者一人ひとりの思いを大切にされた個別ケアに取り組んでいます。生活リハビリに力をいれて掃除や洗濯物たたみ、おやつ作りなどできることは継続し、また一人で歩けるようになりたいなどの希望に沿って職員は見守りながら支援しています。運営推進会議では出席者から情報もらい地域との繋がりが深まり、地域の行事に出かけ地域の方々と交流し利用者の楽しみが増えています。職員は毎日の関わりの中で「気づき」を大事に、気づける力を持つように努力して、利用者が安心して暮らせるよう質向上を目指している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 55 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 62 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 56 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 63 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 57 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 64 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 58 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 61 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「やまぼうし」理念を、月に1回のスタッフ会議において冒頭に全員で唱和して共有し実践につなげている。 | 職員会議の中で理念を唱和し込められた思いを理解しながら取り組み、毎日の関わりの中で利用者の笑顔が見られる場面が増えるよう、ここで暮らせてよかったと思ってもらえるように支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 小学校の夏休みを利用して行われる地域のラジオ体操に参加したり、地域の運動会やコミュニティセンター主催の文化祭に出かけ地域の方との交流を図っている。又小・中学生やボランティアの受け入れも行っている。 | 地区公民館との繋がりができて利用者は文化祭に出かけたり、公園で行われているラジオ体操にも参加している。そのことで地域の参加者が増えたと感謝され、更に出かけた先で顔なじみの方と会える機会にもなり、利用者の楽しみになっている。職員が小学校に向いて認知症の話をするなど地域への貢献活動も行われている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣の小・中・高校の生徒のボランティアや職業体験を毎年受け入れ認知症の方々への理解や支援の方法を深めて貰っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者の状況、事故、活動状況等を報告し意見をもらっている。現場からも職員が参加し意見や質問を述べている。又議事録を所内に掲示したり、議事録を送付し理解を得ながらサービス向上に生かしている。 | 会議は小規模多機能と合同で実施し、利用者・家族等の他に公民館長・協力歯科医・市議会議員の参加もあり幅広い情報を貰える機会になっている。意見や要望はサービスに反映し、家族等からは色々な話が聞けて良かったとの声がある。議事録は終了後開示し理解を図っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の担当者に状況を報告すると共に、わからない事などあれば積極的に意見を仰ぐ等して、協力関係を築くようにしている。また、市の介護相談員の来所時は利用者と一緒に歓談し実情を伝えている。 | 運営推進会議の出席時に情報を得て、また市役所に出向き困難事例の相談や様々な助言を受けている。月1回介護相談員が訪問して利用者から傾聴したことや気づいたことをサービスに活かしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる | スタッフ会議の時に身体拘束についての勉強会を定期的に行い、「禁止の対象となる具体的な行為」「拘束による弊害」等十分に理解している。利用者の状況について会議の中で話し合いを行い、状態の理解と、拘束しない方法を常に検討している。夜間は防犯上時間を決めて施錠をしている。 | 身体拘束をしないケアに取り組みマニュアルを整備している。職員は定期的に勉強会を行い、事例について話し合いを進めている。センサーマットを利用している方がおり、拘束との関係について検討を重ねている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | スタッフ会議の時に定期的に勉強会を開いている。又、外部の講習会等にも参加し学んで、お互いに注意し防止に努めている。検討事項があればスタッフ会議で意見交換しケアにいかしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 会議の時に権利擁護や自立支援事業・成年後見制度等についての勉強会を通し理解を深めている。又、必要性を関係者と話し合い、活用できるよう支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、不安や疑問点等を確認しながら説明している。改定の場合も十分に説明を行うことで理解を得られるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者・家族等が日常生活や面会時または推進会議等で意見要望を表わせる機会を設け、運営に反映させている。又、意見箱の設置も行い、スタッフ会議の議題にもあげて検討している。 | 意見箱を設置しており、家族等とは面会時に意見や要望を聞くようにしている。「やまぼうし通信」を発行し、日頃の生活の様子を写真で見てもらい、担当職員が身心両面の状況と日頃の出来事などを手紙にして送り理解を図り、家族等からは詳しく説明があり安心できると喜ばれている。 | |
| 11 | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者・管理者は、職員の意見・要望を聞く機会を設け、運営に反映できるようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は職員個々の努力・勤務状況を把握し、給与水準・労働時間の見直しなどを行い、個人のスキルアップ・国家資格の取得に向けての取り組みがしやすい環境づくりに努めている。 | | |
| 13 | (7) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は職員1人1人の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、レベルアップに努めている。 | 外部研修は職員個々の希望や管理者の指名で参加してもらい、その後伝達研修で共有している。内部研修は月1回ノロウイルスや嚙下、拘束等について実践研修を行いレベルアップを図っている。個人目標については上司が年2回面接し評価を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 14 | (8) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 職員は学習会に参加した時等、同業者と交流する機会を設け、習得した技術・知識を職員間で伝達しあい、サービスの向上を図っている。 | 全日本認知症グループホーム協会に加入して、長期間にわたる講座に参加し他事業所の見学研修にも取り組み、いろいろな面で職員の気づきと関心が高まっている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス利用の開始より本人が困っている事、不安な事、希望する事など話しやすい関係性を作っている。又、会話や日々の行動などから要望等を職員間で共有し、安心して過ごせるように支援している。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス利用を開始する段階で、家族等が困っている事、不安な事、などを聞きながら信頼関係が築けるように努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービスを開始する段階で、サマリーと利用者の生活歴を見て理解を深めている。家族・本人が必要としている事を見極め、他のサービス利用が可能なのかも、合わせて検討している。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人を介護されるだけの立場におかず、何ができるかできないか十分にアセスメントをし、提供するだけでなく一緒に洗濯物、料理、食材分け等共に協力して行っている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族を支援されるだけの立場におかず、誕生日会・食事会・行事に参加頂き本人との時間を大切にしている。職員は対応についても家族に相談し、協力し合いながら安心して過ごせるように関係を築いている。 | | | |
| 20 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 行事の開催の時は家族に報告し、一緒に楽しめるように心がけている。家族以外の来訪者とも団らんできるようにテーブル・イスを設置している。行きたい場所・馴染みの場所があれば出かけられるよう支援している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の性格と利用者間の関係性を把握し、孤立せず会話したり手助けができるように支援している。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も必要に応じて、本人・家族の相談を受けたり、支援に努めている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中で本人の希望や意向を聞き職員間で共有している。困難な場合は家族に聞いたりしながら希望に添えるようにしている。 | 利用者一人ひとりの生活歴を大事にしながら、日頃の暮らしのなかの会話から意向を把握している。なかなか思いを伝えられない方は家族等から聞き取り、やりたいこと、得意なこと、食べたいもの、行きたいところ等の要望に出来るだけ添えるよう取り組んでいる。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などを聞きながら把握に努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員間でできる事・出来ないことを把握し、心身状態も含みながら、スタッフ会議において全員で把握できるようにしている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族・担当者・ケアマネ等と話し合う機会を持ち、意向、意見を聞いている。3ヶ月に1回モニタリングし、状態の変化に応じてながら介護計画を作成している。状態の変化があれば都度対応している。 | 利用者一人ひとりの思いを大事にしながら、生活リハビリを重視し出来ることを更に継続して、やりたいことを取り入れた計画作成となっている。一人ひとりの個性に合わせた支援で効果も見られている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子・言動・ケアの実践等を個別の記録に残し、職員間で情報を共有しながら、状態の変化に応じて介護計画の見直しをしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 28 | | <p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>近隣の公園を散歩したり、本人の心身の力が発揮できていた場を把握しながら、心豊かな生活が送れるように支援している。(再会を喜ぶ場面も見られている。)</p> | | | |
| 29 | (11) | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>本人・家族の意向を大切に、かかりつけ医と連絡を取りながら、利用者や家族が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。又必要な情報も提供している</p> | <p>家族等が付き添う場合には、受診時連絡表を持参してもらい、適切な受診に繋げている。毎月往診に来てもらい、結果は家族等へ報告し、法人内看護師とも連携を図り健康維持に努めている。</p> | | |
| 30 | | <p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p> | <p>利用者の日々の状態をケース記録に残すと共に、状況に応じて電話にて看護職員に伝え、個々の利用者が適切な医療を受けられるように支援している。</p> | | | |
| 31 | | <p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>利用者が入院した際には、安心して治療できるように情報の提供を行い、病院・関係者との連絡体制を重視している。退院時は積極的に情報を得てスムーズに受け入れができるよう協力体制づくりをおこなっている。</p> | | | |
| 32 | (12) | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>主治医・医療関係者・家族・事業者間でムンテラを行い、利用者の状態・情報を共有している。又、職員間での看取り教育を随時行い、職員全員が本人にとって過ごしやすい対応や環境を共有して支援している。</p> | <p>職員は看取り研修を行い、今年度終末期を迎えた方がおり、意向に添って本人・家族等・医療関係者と話し合いを重ね看取りを実施している。関ったことであらためて命の尊さを想い、また家族等からは感謝の声が聞かれている。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 33 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変や事故発生時に備えて定期的に訓練を行い、AEDの使用方法について研修を受ける機会を設けている。 | | | |
| 34 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 昼夜を問わず、火災や地震などの災害時に利用者が非難できるように職員全員で訓練を行っている。又、地域との協力体制が取れるように構築している。 | 隣接する事業所と合同で年に2回の避難訓練の他、グループホーム独自でも様々な場面を想定して実施するなど日頃から意識を高め、利用者の安全確保に繋げている。備蓄・非常時の持ち出し物はリュックに入れて用意し有事に備えている。 | 様々な方法で毎月実施されているが、水害を想定して訓練の拡充と地域との協力体制を築く取り組みに期待したい。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 35 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人の状況・人格を尊重し、その方の誇りやプライバシーを損ねない声掛け、対応を行っている。 | 生活歴や個別での聞き取りから出来ることや得意なことなどを把握し、接遇研修を行い尊重した関わりに努めている。方言などを取り入れて声がけに配慮しているが、気になる対応には職員同士で注意し合える体制が出来ている。 | | |
| 36 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で会話や行動などから、本人の思いや希望を汲み取り、自己決定できるように支援し職員間で思いを共有している。 | | | |
| 37 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している | 職員の都合を優先するのではなく、顔色や表情を見たり、話を聞き、希望に添った支援を行っている。 | | | |
| 38 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みを取り入れながら体感に合わせた服装でのおしゃれや、身だしなみを整えられるように支援している。 | | | |
| 39 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人一人の力を活かしながら、利用者と職員と一緒に盛り付け、片付け等を行っている。お茶受けの煮物・漬物等、季節に添った食材を使用し、味付けをしたりできるように支援している。 | ご飯・汁物はユニットで調理し副菜は法人内で作り利用者が盛り付けを手伝っている。彩りにも配慮し、少食の方には小分けにして美味しい食事となるよう工夫している。独自のメニューとして天ぷら・寿司・うどんの日などが設けており、海鮮丼が人気で楽しみとなっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 40 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食べる量や水分量が一日を通して確保できるように、利用者の状態、嗜好等を把握し支援している。アイスやゼリー等の提供や好みの物があれば多めに提供するなどの支援も行っている。 | | | |
| 41 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人一人の口腔状態を把握し一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。歯科医師のアドバイスを受けながら汚れが広がらないように支援している方もいる。 | | | |
| 42 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄パターンの把握と共に、チェック表を参考に声掛けを行いトイレでの排泄ができるように支援している。排泄パターンのほかにサインを見逃さず対応している。 | 男子専用の便器を使う方もおり、その方のパターンに合わせて席を立った際にさりげない誘導や周囲に気づかれない声掛けを行い排泄の自立に繋げている。紙パンツなども個別に検討しオムツを減らす工夫に努めている。 | | |
| 43 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分や運動の活用などで個々に応じた予防に努めている。下剤の使用はできるだけ最小限にしながらスムーズに排泄できるよう支援している。 | | | |
| 44 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 一人一人の希望に合わせて入浴が楽しめるように、個々に応じた対応で支援している。バスクリン等を利用しリフレッシュできるような工夫も行っている。 | 回数の制限などはなく毎日入る方もおり、入浴剤を使用し楽しみながらゆったりとした時間になっている。拒否のある方には声掛けに工夫し清拭などで対応している。身体的に困難な場合は機械浴や二人で介助するなど不安なく入浴出来るよう支援している。 | | |
| 45 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣やその時の個々の状況に応じて、休憩時間を設けたり、安心して眠れるように支援している。 | | | |
| 46 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 使用している薬の目的や副作用について把握しており、状態の変化等あれば連携ナースを通し、主治医が状態に応じた処方ができるよう連携している。マニュアルに添った服薬体制を行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 47 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人の生活歴や本人の持っている力を役割作りに活かし、お出かけ、馴染みの店等での外食が行えるように支援している。 | | | |
| 48 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は、その人の希望に添って散歩又はドライブ等でなじみの場所へ出かけられるよう支援している。遠出する際は家族の協力を得ながら家族と共に出かけられるよう支援している。 | 天候に合わせて河川敷の花見や季節ごとのドライブを皆で楽しみ、利用者には笑顔が見られている。最近では身体的に遠出するのは困難になってきている方もおり、向かいの公園や垣根のうごき摘みなどで外に出る機会を設け気分転換を図っている。 | | |
| 49 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一人一人の希望や力に応じてお金の支払いができるよう支援している。 | | | |
| 50 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族からの電話を受けたり、年賀状などで近況報告できるように支援している。 | | | |
| 51 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間が居心地良く過ごせるように配慮しており、生活感や季節感を取り入れて自由にお茶を飲んだり、会話したり居心地良く過ごせる空間作りをしている。 | 廊下は広く車椅子でも安心して通る事ができ、歩行器を使用して生活リハビリを行っている方もいる。利用者と一緒に作った創作物や団子木を飾り季節を感じながら明るいホールで居心地よく過ごしている。ホール続きのテラスがあり夏にはビアガーデンを楽しみにしている。 | | |
| 52 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | その時々で一人で過したり、気の合った仲間同士で過したりできる居場所作りをしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は本人・家族と相談し、馴染みの物を設置したりして居心地良く過ごせるように工夫している。居室でのプライバシーにも配慮している。 | 慣れ親しんだ物を持ち込みベッドや家具は利用者の身体状況に合わせ動線を確保して配置し、落ち着いて過ごせるよう設えている。ドアを開けっぱなしにしないなどプライバシーにも配慮している。 | |
| 54 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 「できる事」を活かして安全に自立した生活ができるように支援している。バリアフリー化し家具類の配置もアセスメントを行い自力で移動できるように配慮している。 | | |